

## 平成 27 年度第 1 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会会議録

会議名称	平成 27 年度第 1 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会
開催日時	平成 27 年 5 月 22 日（金）午後 3 時 00 分～ 4 時 00 分
開催場所	門真市役所本館 4 階 第 10 会議室
出席者	（委員長）柴田委員長 （副委員長）松宮副委員長 （委員）西村委員、藤井委員、三村委員、牧菌委員 【出席人数 6 人／全 7 人中】 （事務局）岡生涯学習部次長、清水生涯学習課長補佐、酒井学校教育課副参事、 松本生涯学習課係員
議題 （内容）	第 4 回門真市中学生英語プレゼンテーションの報告 第 4 回門真市中学生海外派遣研修について 第 5 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて 今後のスケジュールについて
傍聴者数	－（門真市情報公開条例第 6 条第 5 号に定める不開示情報に該当するため、非公開）
担当部署	（担当課名）生涯学習部 生涯学習課 （電 話）06-6902-7139（直通）

### <事務局>

それでは、平成 27 年度第 1 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を開催いたします。

まず初めに、人事異動により委員の一部に変更がございましたので、事務局より改めまして委員の皆様方をご紹介させていただきます。お手元の資料 1 をご覧ください。

関西外国語大学英語キャリア学部、松宮 新吾教授でございます。

関西外国語大学英語国際学部、西村 孝彦教授でございます。

教育委員会事務局生涯学習部長、柴田 昌彦でございます。

教育委員会事務局学校教育部長、藤井 良一でございます。

教育委員会事務局生涯学習課長、牧菌 友広でございます。

教育委員会事務局学校教育課長、三村 泰久でございます。

本日、委員をお願いしております関西外国語大学外国語学部並松善秋教授はご欠席されておりますので、ご報告いたします。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

生涯学習部次長、岡でございます。

生涯学習課課長補佐、清水でございます。

学校教育課副参事、酒井でございます。

最後に私、生涯学習課、松本でございます。よろしく願いいたします。

議事に先立ちまして、柴田委員長よりご挨拶をお願いいたします。

### <柴田委員長>

それでは、めざせ世界へはばたけ事業推進委員会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。委員の皆様方には、公私ご多忙の中、ご出席を賜りどうもありがとうございます。御礼申し上げます。

特に、関西外国語大学の先生方につきましては、毎回、門真市まで足を運んでいただき、ありがとうございます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

いよいよ、めざせはばたけ事業も、5 回目を迎えることとなりました。それに先立ちまして、8 月には 4 回目の海外派遣もでございます。これまでと同様 9 人の海外派遣研修生をオーストラリア、アデレード市に派遣し、また、新たな歴史を刻むことになるんですけれども、4 回目のプレゼンテーションコンテストでは、377 人の応募がございました。ここ数年 370 人、380 人というところなんですけれども、だんだんこの事業もおかげさまで定着してまいりましたけれども、今までの実績を基盤といたしまして、さらに今年度は、5 回目の記念という事で、さらに充実、発展させていかなければならないと考えているところでございます。

皆様方の協力と連携の下、門真市の英語教育をさらなる高みへと向上させていきたいと考えております。

この事業が、子どもたちのためになる素晴らしい取り組みになりますよう、実現に向けまして、活発なご審議をお願い申し上げます。簡単ではございますけどご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### <事務局>

ありがとうございました。案件に入る前にお手元の資料の確認をお願いします。

まず、第1回推進委員会議事次第です。

資料1、門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会名簿です。

資料2、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則です。

資料3、第4回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト報告です。

資料4、門真市中学生海外派遣研修行程表（予定）です。

資料5、第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト実施要項（案）です。

資料6、第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト応募用紙（案）です。

資料7、第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト一次審査実施要領（案）です。

資料8、第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト二次審査実施要領（案）です。

資料9、第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト審査実施要領（案）です。

資料10、コンテストの課題と対策（案）です。

お手元がないものがございましたら、ご連絡いただきますようお願いいたします。ないようでしたら、これからの進行を柴田委員長にお願いします。

#### <柴田委員長>

それでは、早速ですけれども議事次第に沿って進めてまいりたいと存じます。

案件1、第4回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト、第4回ですので、今年の2月22日に行われたコンテストの報告を、それでは、事務局の方からよろしくお願い申し上げます。

#### <事務局>

それでは、ご報告いたします。5ページ目資料3をご覧ください。

第4回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストは、平成27年2月22日（日）に開催いたしました。当日来場者数は、245名。応募者数は377名で、内訳については、第二中学校が1名、第三中学校が13名、第四中学校が1名、第五中学校が123名、第七中学校が97名、門真はすはな中学校が141名、国立中学校が1名となります。

次に、一次審査（書類）通過者48名（うち7名辞退）、二次審査（面接）通過者18名

（うち1名辞退）となります。コンテストの出場者は、17名で、受賞者の内訳は、最優秀賞1名、優秀賞8名、奨励賞8名となります。詳細については、資料のとおりとなります。以上で報告を終わります。

#### <柴田委員長>

ありがとうございました。今、事務局から説明がございましたけども、この件につきまして何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

よろしいですか。それでは私の方から1つ、これはいつも申し上げていることですが、やはり各校のばらつきといいますか、応募の少ない学校につきましては、多い年でも10名切っていると思います。この辺からも今年は、呼びかけをしていただいて、できたら主旨に賛同して生徒も先生も参加してもらえるように、また、働きかけの方よろしくお願い申し上げます。

#### <松宮副委員長>

すいません。それと関連してなんですけども、1つは、27年度で5回目ということなんですけども、初年時、2年時は、事務局側が、かなりしゃかりきになって参加者を上げていこうという努力をされて、それがある程度、数が伸びてきて定着してしまっている、ここが大事かなという気がいたします。ですから、どれだけ多くの参加者を巻き込むかという、それで機械的に一次審査で紙だけ出して、運が良ければ二次へ上がっていくという発想よりも、もっと何かもう少し熱があるような、上がってくるような取り組みっていう方法が1つ無いのだろうかというのが、1つ気になっているところです。もう1回仕切り直しといえば変な

言い方ですけれども、事務局側、我々が、何か方策、戦略的なものを練っていった方が良いのではないかと思います。ここまでやはり成果を出していますから。それから今年選ばれた9名からその後、辞退等の情報は、入っていますか。

<事務局>

今回の海外派遣研修につきましては、全員参加の意思表示をいただきました。

<松宮副委員長>

はい、分かりました。

<西村委員>

第4回のプレゼンテーションコンテストから質問形式を、ネイティブの先生と2人で同時に全員に向けてということで変更し、スムーズにいったように思うのですが、いかがでしょうか。

<藤井委員>

まず、公平性がしっかり担保されたと感じました。それから子ども達にとってもステージの上で非常に緊張する中で答える際に、二人の方が、相互に補完しながら質問されているという連携のあり方も、すごくよく分かり、とても改善されたなど感じました。

<西村委員>

生徒さんもすごく上手く答えられてましたので、良かったです。

<柴田委員長>

1番バッターは、緊張する度合いが強いのと思うんです。皆さんが、緊張する雰囲気、審査員の先生も含めて、和らげていただきますので、そういうハンディを感じさせない形で、入っていているのが良いのかなと思います。良いものは、検証しながら進めていったらどうかという感想を持っております。

<松宮副委員長>

そうですね。それに関連して、また、失礼いたします。これは、関西外大の学生が司会、MCを担当させていただいて、非常に良い経験をしてるんですけど、やはり子どもたちとその聴衆とのインターアクションというのが一番の特色なんですね。中学生がステージに立って、例えば、ハローって言ったら、聴衆の方からそれ以上のハローとか、ハイとかっていう声が返るような仕組みを、是非第5回のところでやっていきたいなと思っております。そうすると今度は、司会役が最初、会場に来ている皆さんに、2、3回練習してみましよう、という会場とのダイナミックなやり取りができるようなことをしてやると、質問者に対して、質問者から何が飛んでくるんだろうというどきどき感よりも、もっと会場の一体感が生まれて、うまくいくんじゃないかなあと、その辺りを、少し研究させていただいて、次の会場では、おじいちゃん、おばあちゃん、先生、友達が来ている中で、呼びかけたら、返事が返ってくる、でどこどこに行ったことがある人、と中学生が言ったら、はい、と見本でも良いので、声が返ってくるぐらいの仕組みを、工夫させていただければというのがあります。

<柴田委員長>

前説というんですかね。

<事務局>

事務局で検討しているのは、よく漫才で見られる、前座で若手芸人さんがやるような感じのところを、何とか取り入れることができないかなと検討しているところです。

<柴田委員長>

その他、何かご質問、ご意見ございますでしょうか。次の案件に移らせていただきます。それでは、2番ですけれども、第4回海外派遣研修について、事務局よりご説明をお願いします。

<事務局>

それでは、ご説明いたします。6ページ目資料4をご覧ください。第4回門真市中学生海外派遣研修は、平成27年8月1日（土）から8月10日（月）までの10日間、第4回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト出場者の内9名と引率職員2名、そして添乗員1名が同行して、オーストラリア、アデレード市へ行く予定となっております。研修先は、昨年度と同様のチャールズ・キャンベル・カレッジです。海外派遣研修に先立ち、事前研修を3回行います。事前研修では、市内英語教員と関西外国語大学の学生の参加の協力を得て、研修生が持ってきた家族や学校、大切にしている物の写真を、英語で説明する練習に重点を

置いて、ホームステイでの英会話の練習を行います。3回目は松宮教授のご協力を得まして、現地校とスカイプ交流を行う予定にしております。

現地オーストラリアでは、1ホストファミリーに1名の研修生がステイする形を取り、学校では、バディと呼ばれる学生に付いてもらい、一緒に授業を受けます。課外学習では、クラーランド野生保護区やタンザニア・アボリジニ文化研究所を見学します。

また、ウェルカムセレモニーでは、研修生によるプレゼンテーションを行います。以上です。

#### <柴田委員長>

ありがとうございます。ご質問、ご意見いただく前に、昨年と比べて、変わった点、改善点があればお願いします。

#### <事務局>

事前研修の中身について、先ほど少し説明させていただきましたが、研修生が持ってきた家族や学校の写真を大切に、導入部分でのフォトアルバムを使った英会話の練習に重点を置くこととしました。これは、引率する先生とご相談させていただきました。以前ですと、広告を使っただけの英語の練習であったり、大阪府はどんなとこだとか、門真市はどんなとこだとか、ということも行いましたが、これを検証したところ、一番良く使っているのは、写真ということが分かりました。それで、写真に重点を置こうということで、そこを中心に3回の研修を構成し、企画させていただきました。

#### <松宮副委員長>

非常に良いと思いますね。できれば、デジカメですかね。各学校が持つてくるデジカメとか学生は持っているんですかね。自分のスマートフォンとか。よく分かりませんが、そういったもので、日本のそれぞれの自分の中学校の日常生活を、勿論映し出される子ども達の許可は必要ですが、撮影したものをどんどん持ってきて、それを表現していくということが、オーストラリアの子どもたちやホストにとっても、すごく興味がある文化交流になると思いますので、是非、研修のメインとして位置づけていただければと思います。

#### <柴田委員長>

今先生がおっしゃいましたように、この研修は、国際交流という面も大いに含んでいると思いますので、そういう視点から、また、検討していただけたらと思います。その他、何かございますでしょうか。

#### <松宮副委員長>

1点だけ情報提供よろしいでしょうか。実は、今朝メールが届いたばかりで、私も中身見ないで、読み出しているんですけれども、キャンベルの先生からのメールが返ってきています。どういう風に返ってきてるかという、たまたま今日来たんですが、門真市の皆さん、代表団からのご訪問を今年も楽しみにしております。昨年、中学生の皆さんが行ったプレゼンテーションは、非常に面白くて、オーストラリアのバディ、中学生も非常に楽しむことができました。私は、4人のバディから今年はいつ来るのか、という問い合わせをもう既に受けています。7月24日(金)のスケジュールは、本学にとっても好都合です。日本時間の13時、オーストラリアでいうと13時30分となりますけれども、丁度、昼食が終わる時間になりますので、生徒を集めて、お互い自己紹介する準備をしておきます。ということで、7月24日のスカイプ交流につきましても、了解を得ております。これも1つの参加する学生のリアリティ、それから、保護者の方も来られてましたよね。そういう方々が、向こうで受け入れてくれるホストのバディの顔を見たり、声を聞いたりするっていうことが、非常に安心感を与えてくれるし、実際にこれから行くんだという意味でタイミングが非常に良いのかなという風に思います。

#### <柴田委員長>

事前研修のスカイプ交流のやり取りは、撮影等で、記録されていますか。

#### <事務局>

写真での撮影を行っています。ビデオでは、撮っていないですが、1度記録として撮ってみましょうか。

#### <柴田委員長>

はい。できるのであればお願いしたいなと思います。他何か、ご要望でも結構ですが、ございますでしょうか。

### <松宮副委員長>

それと、また情報提供になりますけども、7月24日のスカイプ研修の時に、関西外大の都合で申し訳ないですが、学期末講座の途中なんです。学生の時間割がまだ発表されていないんですけども、学期末試験が、7月24日から8月7日まであります。ですから今、実際に事前研修に集まっている学生が8名程いるんですけども、数がまだ確定できませんので、参加できる学生のみを動員します。

### <柴田委員長>

無ければ、また後で、ご質問いただくといたしまして、それでは、次の案件3に移らせていただきます。第5回門真市プレゼンテーションコンテスト、来年、年明けに行われるんですけども、これについて説明をお願いします。

### <事務局>

それでは、ご説明いたします。本推進委員会では、今回5回目を迎えるに当たり、改めて応募・審査方法、実施内容についてご検討いただきたいと思いますと考えています。

まず、8ページ目資料5をご覧ください。実施要項(案)についてご説明いたします。昨年度との変更箇所については、下線部分となります。変更箇所は、9ページ目からとなります。まず、表記の変更としまして、一次審査、二次審査は、コンテスト出場に向けての通過点となるため、合格者という表現を通過者に変更しております。また、10ページ目15番応募方法の申込期間に必着という文言を追記しました。次に、改善内容として3点を変更しております。まず、1点目は、二次審査(面接審査)には、参加者を増やし、出場機会を増やすことを目的に、一次審査の通過者を30人程度から50人程度に変更しております。2点目は、二次審査について、辞退が発生した際に、出場機会を増やす目的から、「辞退者が発生した際は、次点の者を繰り上げる場合があります。」との文言を追記しております。この時の通知方法は、先に通過者へ通知し、意向確認期間を設け、辞退者が出た際には、追加で通過通知と不合格通知を送付します。最後に、海外派遣研修においても、辞退者が発生した際に、繰り上げることができるようにするため、プレゼンテーションコンテスト出場者の内9名については、平成28年に実施予定の海外派遣研修候補生となることができます。と文言を変更しております。

次に、応募用紙(案)についてご説明いたします。13ページ目をご覧ください。英語、日本語を交互に記入してもらうような様式へと変更しております。以前は、2枚目に英作文、3枚目に日本語訳を記入する様式にしておりましたが、審査の際に英文と日本語訳の確認をしやすいように変更しております。

最後に21ページ目資料10をご覧ください。コンテストの課題と対策(案)についてですが、1~3については、先ほどご説明しましたとおりとなります。4について、今年度は、コンテスト発表者の問いかけに会場が応えられる雰囲気作りができるように、前座として、コンテスト開始前に、舞台側と会場で挨拶、応答の練習を取り入れてみてはどうかと考えております。以上です。

### <柴田委員長>

ありがとうございます。いくつか改善点とか、ございましたけれどもこれについてご質問、ご意見等ございましたらよろしくをお願いします。

この12ページから14ページのところが応募用紙の変更点でしょうか。

### <事務局>

はい。応募用紙につきましては、昨年度から変わっているのが、白抜きの文字である日本語訳をご記入下さい、という日本語訳の部分です。以前の様式ですと、別のページに書いてもらっていたんですが、英語表記をしていた内容を、どの様に日本語訳にしようとしていたのか確認するとなると、どうしても日本語文を見ないといけないということで、それを今までページを分けていたものを、そのページ内、上段と下段で分けてみてはどうかということで、今回検討させていただいて、提案させていただいております。

### <柴田委員長>

では、私の方からちょっと質問させていただきます。1行ずつで、英語と日本語という形にすると、文章を1行で完結しないといけないという誤解をする子も出てくると思いますので、この例をもう少し、3行から5行ぐらいに、もうちょっと長い文章にするというのは、可能であればいかがでしょうか。これは、私の個人的な意見ですけども。

### <松宮副委員長>

そうですね。どうしても日本語を英語に直すとなると、英語の方が、長くなってしまいうんですね。説明的になってしまっ。中学校の教科書等を見ていただくと、本当に短い文章でつないでいってるといことになりますので、これだと1文に対して1対応という誤解が出てくるような気がします。要は、中学生が書きやすいということと、今度は、何百枚も見て評価する、一次審査の事務局側が見やすいかどうかというよりも、特に中学生が書きやすい方を選んだ方が良いのかなという風に思います。

### <西村委員>

1行1行ではなくて、例えば3行とか4行とかパラグラフみたいな感じで、下を要約的なことで付けるとか、1行1行であれば、翻訳的になるので、余計見にくいのではという気がします。文をまとめて、3文とかフレーズを増やしたらどうでしょうか。と思いますけど。

### <松宮副委員長>

300名、400名というオーダーで、評価する時にこの方が評価しやすいという風に判断されたところがあるのですか。

### <事務局>

はい。審査していただいた方からその意見をいただいたので、それを何とか盛り込めないかという検討の中で、提案させてもらっています。前回の形の方が、中学生が書きやすいということであれば、戻すのもありだと思います。ここは、それを検討していただく場ですので、委員会の中でご検討をお願いします。

### <松宮副委員長>

私の考え方なんですけども、英語と日本語っていうのは、そもそも構造も、それから思考方法もメンタリティも変わってくるということですから、日本語と英語の1対1作業だと非常にまずい部分が出てくるんですね。逆に、非常に難しくなるんです。日本語が英語の表現に対して制限をかける、逆に英語が日本語を稚拙なものにしてしまうという可能性がありますので、従来の日本語、英語という風にブロックで分けた方が、書く方は、圧倒的にやりやすいだろうと思います。ですからどちらかの言語が、どちらかを束縛する。干渉を与えということが、出てくる可能性がありますので、分けた方が、作成側にとってやりやすい。それから、評価する側は、どうですかね。その辺り、色々なご意見出されたと思うんですが、というのが今の意見です。

### <事務局>

それでしたら、失礼ですけども、私の方からご質問させていただいてもよろしいですか。実は、今まで英語を先に書いていました。英語を書こうとした時に、子ども達の発想の中に、日本語を英語訳しようするのは当然なんですけども、最初に英語を書かせた方が書きやすいのか、それとも日本語を先に書かせた方が良いのか、例えば、理由書を先に持ってきて、書いという方が良いのか、子どもたちの英語を考えるに当たっては、順番という部分でご意見というか、その辺りのところの智恵を、いただけたらなと思っております。今までは、理由書を一番最後のページとしていましたが、応募表紙の裏に理由書を持ってきて、まず、なぜこれを伝えようとするのか、というのを書いてもらったうえで、次に日本語か英語にするかで四苦八苦しました。その辺り、智恵をいただければと思います。

### <松宮副委員長>

そうですね。12ページの改善は、良いと思います。これがいわゆる英語のエッセイを書いたりする時のステートメントファストパス、要するに目的を明確に最初に出しましょう。これは、母語で良い訳です。だから、日本語でタイトル、日本語、英語でタイトルを出して、そしてそれで、なぜという理由をまず明確にさせるという、この方が良いと思いますね。理由が明確になったうえで、後半の具体的な概要、発表内容につなげるという意味では、前回に比べて改善されていると思います。ですから、このフォーマットは、私は良いと思います。後は、日本語にして、英語にするか、英語にして、日本語にするか、というのは、私は、中学生っていうのは、完璧に母語は出来上がってますから、日本語を持ってきて英語にさせてやるということの方がやりやすいだろうなと思いますね。大事なことは、日本語を訳すという発想では無いということが、応募用紙の中に日本語と英語の内容っていうのが、全く日本語の訳ではないですよという、注釈をかけておくと、もっと書きやすくなると思います。日本語に束縛される、英語に束縛されるというのは、一番良くない。発想を萎縮させてしまい

ますので、その意味では、順番は、どちらであっても良いと思いますね。

#### <西村委員>

海外派遣研修のところで、先ほどおっしゃったフォトアルバムを使いながら、だから映像を思い浮かべながら、写真見ながら英語しゃべりますよね。そんな感じで、日本語書く時も、英語の時も、そんな風にイメージつかみながら、書いていくっていう方が、そんな風な感じで、英語を書く、英語を発信する癖を習慣付ければ、一段と出来てくると思うので、だからピクチャーをイメージしながら訴えかけたいことを、日本語でも英語でも書いていくというのが、大事なかなと思います。

#### <松宮副委員長>

このフォーマットでいくとすると、12 ページは、この形で改善されたと思っていますので、13 ページ、14 ページのところをやはり最初に言いたいことを、主旨を日本語で書きますけど、今度は英語で表現してみて、最後に確認のため、日本語っていう順番の方が、中学生にとっては、結果としては良いものが出てくるのではないかなと思います。どうしても日本語を書いてしまったら、それを訳さないといけないとなってしまうので、読む側もつまらないと、同じものを読むような感じになりますので、その辺りを工夫させると彼らの勉強にもなるのではないかなと思います。

#### <柴田委員長>

その辺、また学校の先生に主旨も伝えていただいて、子どもたちもそういうのが分かるように工夫を、いつも注文多いですけども、生涯学習ですので、皆で勉強しながら進めていけたらかなと思います。他にございませんでしょうか。

#### <藤井委員>

松宮先生の方から戦略的にどうやっていくのかという話を、最初にいただいて、色々考えてたんですが、プレゼンテーションコンテストの中身の部分では、かなり素晴らしいなと思っています。後は、横の広がり部分を、市としてどうしていくのか。この1つの事業が、学校やKEIKやそういうところに広がり、子どもたちの中に、我々の市は、英語に力を入れている市だとか、英語が聞こえる街なんだとか、イメージが広がる、最終的には、そこぐらいつままで市としてのゴールなのかなと思っています。それに至るまでにとりあえず今は課題として、中学校に取り組みのばらつきがあったりとか、教員の関わりにすごいばらつきがあったりとか、そういうところをどう揃えていくのかということが課題だと思う。コンテストの形として、書類審査から、面接から本番までの流れがあるんだけど、そこにどう学校を絡ませていったらいいのだろうと、絡まざるを得ないというようなあるいは、絡んだらその学校にとってすごいメリットがある、といったような仕掛けをどうしていくのかということだと思っています。今また、思い付きなんですけど、例えば、50名選ばれるとする。これは作文があがってきて、我々が選ぶと、それとは別のチャンネルで学校の推薦というか、拾い上げて、落ちた子の中にもきらっとしている子がいるかもしれない、それを学校は知っている、けどその作文だけでは、拾いきれないところもあるかもしれない。学校枠みたいなものがあると、公平性の問題はあるかもしれないですが、例えば、各学校2名ずつ、学校でセクションして上げてきてもらった者は、面接に入れるよとか、そういうことであれば、やる学校は、自分らの学校の子らを別のチャンネルで出せるとか、そういう話を各学校に下ろして、各学校からの推薦をもらうことになるよと、落ちてきた子も再チャレンジできるよ、というのがあればちょっとは変わってくるかなと、そういう話を英語の先生の代表の中に丁寧話していくと良いと思います。

例えば、その時に、こういう子やったらという制限というか、例えば、英語が好きでたまらない子は、推薦して下さい。英語が好きでたまらない、家で塾に通う経済的な余裕が無いけど、すごい意欲のある子とか、それからすごい人生の目標を持っているとか、そういう一定はしっかりしたものを付けてはどうかなと思います。作文の出来は良くないけど、英語の成績は良いとか、それだけではこの事業の主旨としては、駄目だと思うので、ほんまにそういう意欲とか、ある意味、生活的な逆境を乗り越えてでも行こうという方向性を持っているとか、具体的な指標を付けて、学校に返すというのはどうかなと。今の思い付きで申し訳ないですが。

#### <柴田委員長>

いかがでしょうか。日ごろの意欲を大事にするということですね。

### <藤井委員>

一部ですけど、大きなスキームとしてはこれで、学校を絡ませるには、それなりの工夫があるだろうと思います。

### <松宮副委員長>

確かにそうですね。学校の先生方の意識を変えていただくという意味においては、学校推薦枠というのを入れるのも強制力が高まるというか、面白いですね。方法としては、本人の意思も無いのに良い子だからという形ではなく、一次には出したけれども、残念ながら二次に行けなかった学生の中で、学校推薦枠を各校2名までは受けましょう、というような方法もあると思いますね。全部で6中学でしたね。

### <柴田委員長>

50人は、大体決まっているんですよね。6かける2名の12名の枠を外すと38名。38名を選んで、それにその学校の推薦枠12名を加えて、50名という考え方で良いんですかね。

### <藤井委員>

何百もあれば、1行だけ適当に書かれている作文もたぶんあると思います。夏の宿題なので仕方なく1行で書いてきてるもの等もあると思いますが、この子はどうしようかなという層も、実際あるんですか。

### <事務局>

若干あります。ここに字数制限というのを設けています。膨大な量を書いてきたりするケースがありました。

### <藤井委員>

何もしなければその情報にアクセスしない子は、門真にはいっぱい居て、親からの働きかけも無いと、アクセスさせるのは学校である。それなのに、それをしないというのは、親からすると、この学校は何もしてくれない、となるので、そういうことをきっかけにしても、応募の少ない学校の中に埋もれている色々な子が、発掘できるようになったらいいなと思います。

### <事務局>

別件で、話が一昨年度あったのは、12月に実施される暗唱大会が、学校であります。12月に実施された分で、学校毎に選抜者を選んでいると思うんですけども、その中から選出するというのは、できないのかなという意見をもらったことはあります。それは、枠組みのところを、検討しないといけないですが、そういう案もあるかなと、藤井委員のご意見いただいた中で、検討できる内容かなと思いました。

### <藤井委員>

暗唱大会というのは英語力の1点評価で決まっているのであって、これは、英語のできる子を選抜してやるのだから、本事業とは考え方が違います。

### <柴田委員長>

それをやると今まで12ページから14ページで検討したのが、意味無くなってしまいますので、これはこういう主旨でやっているということで、このやり方に沿う形で、良いのじゃないかなと思います。それでは、学校に対する働きかけ、何かアクションを起こしてみるのも必要な試みですので、もう1度検討していただいて、また、結果を先生方にお知らせするという形で、前向きに検討すると、それでよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、今後のスケジュールについて、説明をお願いします。

### <事務局>

今後のスケジュールについてご説明いたします。海外派遣研修の事前研修については、昨年同様計3回の事前研修を行います。まず、6月6日に第1回、6月27日に第2回、7月24日に第3回を行います。その内、第3回事前研修においては、スカイプ交流を行います。海外派遣研修については、8月1日から8月10日までの期間で実施し、8月29日(土)には、帰国後交流会を行います。

第5回プレゼンテーションコンテストは、7月の広報等におきまして募集を開始いたします。9月28日(月)に出場者の募集を終了し、10月上旬に書類審査、11月下旬に面接審査を実施いたします。第5回プレゼンテーションコンテストについては、平成28年2月21日(日)に開催いたします。コンテスト前には、昨年同様計4回の事前研修を行います。

第2回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会の開催は、平成28年2月上旬から中旬



辺りで考えております。ここでは、海外派遣研修などの実施報告とプレゼンテーションコンテストの進捗状況について報告し、コンテスト最終審査当日の確認をお願いする予定をしております。日程につきましては、改めてメールにてご調整をさせていただく予定にしております。

以上で、説明を終わります。

#### <柴田委員長>

ありがとうございました。第5回のコンテストに向けて私立の中学校、国立の中学校含めて、その他、広報以外のPR方法について、何か検討していることがあれば、皆様にお知らせ願いたいと思います。

#### <事務局>

まず、私立、国立関係につきましては、昨年と同様になるんですけども、主立って門真市在住の子で、近隣の私立に行かれている数が、上位10校ぐらいに、まずは連絡をさせていただいて、ポスター並びに応募用紙を直接お持ちし、参加の呼びかけをしていきたいと考えております。国立の中学校につきましても、ポスター並びに応募用紙を送らせていただいて、参加を促していきたいなと思っております。開催の案内につきましては、これまで、小学校等には、あまりポスター等十分送れていなかったというのもありましたので、これからのことも考えますと、小学校等につきましても、しっかり告知内容等、掲載をお願いして、ポスターも配っていききたいなと思っております。以上です。

#### <柴田委員長>

何かご意見、確認しておくことがあれば、お願いいたします。

#### <西村委員>

ちょうど5年目になるので、5という数字を強調してはどうなのでしょう。5とか10というのは、目立つので。ポスターに。

#### <柴田委員長>

ポスターかチラシに、人数多いと大変ですが、どなたか1人体験者に、体験談みたいなのを呼びかけてもらうというのは、可能ですか。ポスターなので、だらだら書く必要は無いと思いますので、素晴らしい体験ができましたというようなコメントを載せてはどうかと思います。

#### <事務局>

ポスターの中に一部そういう文言ですか。分かりました。1度検討させてください。

#### <藤井委員>

今、大学生は居るのですか。

#### <事務局>

大学生は、まだです。高3までです。第1回目に3年生で行った子どもたちが、4年経っていますから、今ちょうど高3ですね。

#### <柴田委員長>

何か全般を通して、何かご意見ございましたら、お願いします。よろしいでしょうか。それでは、皆さんお忙しいと思いますので、以上をもちまして、この第1回目の門真市目指せ世界へはばたけ事業推進委員会をこれで終了させていただきます。本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。